

No. 960

SOSこどもの村

—八王子—

今春、浅川小学校上長官分校に入学したアッチャン、この3月に八王子裏高尾に引越してきたばかりだ。昨年
の3月、アッチャンのおとうさんは交通事故で死んだ。疲れからおかあさんも入院、アッチャンはどうすること
もできなかった。そんな時、SOS子供の村に入学することが決った。*SOS子供の村、私財をなげうってこ
の村を建設した佐々木さんは「SOS子供の村とは交通事故で親を失った0才から14才までの子供たち、6、7
人を年令順に兄弟姉妹のようにして1人の母親（保母）の下に家庭的に育成する独立した1軒1軒の家庭の集り
です」と説明、昨年9月生後9カ月の交通遺児を引き取り村は発足した。ひとりぼっちのアッチャンにヒロチャ
ンというかわいい妹ができた。小さいヒロチャンはアッチャンのまねばかりする。アッチャンは偉くなったような
気がする。佐々木さんの善意でアッチャンとヒロチャンは再び暖かい家庭で育てられることになった。

幸福な家庭を一瞬にして不幸のどん底につきおとす交通事故、日本の交通遺児は10万人に達するといわれる。
このような悲惨な交通事故を防ぐために、国民のすべての人々が安全への努力をしなければならない。

光化学スモッグ

つづげまの光化学スモッグ被害で5月29日から臨時休校した東京練馬の区立石神井中学校は6月2日、4日
ぶりに授業を再開した。

朝8時登校する生徒たちは「きようは大丈夫かな……」とみんな様に心配顔。「栄養と睡眠を十分にとりな
さい。そしてなによりも大切なことは光化学スモッグについて神経質にならないこと」と長田校長の校内放送に
生徒たちはなんとなく落ち着いた様子で聞き入っていた。しかし1時間目のホームルームの最中に女生徒など5
人が次々にたおれ保健室へかたぎ込まれた。

都公害局が同校に派遣している大気汚染測定車の観測によると午前9時30分現在、オキシダント0.045 PPM
一酸化炭素1.0 PPM、気温23度、北東の風1.2メートルで異状なし、それなのに5人の生徒がたおれるとは…
…と係員は首をかしげる。

横浜国大の加藤助教授は、「ガソリンの無鉛化が進むにつれてガソリン中の芳香族炭化水素が逆にふえ、これ
が強く作用しているのではないか」との見解を発表。しかしながら、これというきめてもなく、学校へ詰めかけ
た父兄の表情にも複雑なものが感じられた。